

あがこん通信

第22号

発行/あがた善彦事務所

〒807-0874 八幡西区大浦3丁目12-1-2階

TEL 093-482-5240

FAX 093-482-5241

<http://agata-y.jp>



自由民主党
福岡県議会議員 あがた 善彦

ごあいさつ



皆様いかがお過ごしでしょうか。本当に厳しい今年の夏でした。空梅雨を心配していた矢先、突如の九州北部豪雨。甚大な被害が発生し、37人の尊い命が奪われました。心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。

6月16日、大恩ある寺坂カタエ先生が95歳でお亡くなりになりました。皆様に支えられ、私が県議会議員として18年目を迎えられることができました。「北九州の母」として寺坂先生のご指導をいただいたお陰に他なりません。まだまだお元気で活躍になり、是非とも我々で白寿のお祝いをさせていたただきたいと思っております。残念

でなりません。寺坂先生、本当にありがとうございました。頑張りますから、どうぞ安らかに眠りください。

さて、国内外の情勢は風雲急を告げ、特に北朝鮮の問題は出口の見えない状況が続いています。韓国大統領の交代により、日・米・韓に微妙な温度差も見られます。こんな時

「国政の安定」が崩れれば、社会の安定も崩壊、経済も失速してしまいます。マスコミには好意的に報道してもらえませんが、安倍政権は確実に多くの成果を挙げています。民主党の時代を振り返るまでもなく、今こそ自民党の継続が重要です。今後とも皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

モノ申す!

人生の並木路 — 寺坂カタエ先生を偲ぶ —

地盤・看板・靴：ないない尽くして立候補した県議の初代後援会長であり、不世出の女傑であった寺坂先生が六月、鬼籍に入られた。享年九五歳。

九月開催された徳ぶ会の終盤、教え子のお一人から先生が「人生の並木路」をお好きでよく歌われたと紹介があり、会場のあちこちから「泣くな妹よ…」と哀切な歌い出しを口ずさむ声が聞こえた。

真珠湾攻撃の四年前、一九三七年の古賀メロデーは五〇代の私にも聞き覚えがあったが、なぜか途中は欠落し突如「生きて行こうよ希望に燃えて」の歌詞が頭に浮かんだ。ああ、なんと先生にふさわしい歌であることか! 胸打たれつつ寂しさに涙がこぼれた。神戸以西で女性初の公立中学校校長。北九州市教育委員。女性センター「ムーブ」立

ち上げ。女性たちのリーダーとして、活躍の場はコペンハーゲン、ナイロビ、北京…世界へ拡がった。後進にとてつもない影響を与えた輝かしい経歴。

けれど先生の歩かれた路は決して平坦ではなく、困難な時代故の飢渴や窮乏、女性であるが故の理不尽や無理解と格闘し続ける茨の路であったに違いない。男尊女卑の社会、少女であっても学びたい心。教師への道のり。八幡大空襲で一夜にして多くの教え子を亡くされた悲しみ。教え子の飢餓を救うため食糧調達に奔走されるご苦労。教員と母親の両立を立派にやり遂げられたことなどなど。

公演を拝聴するたび痛快な語り口に魅了され、凡百には驚異でしかないエピソードの数々に胸を熱くし、時に爆笑した。先生との会話のいくつか

は今も心に残る。「気合が足らん。」と叱られもした。「ひもじゅうて、ひもじゅうてね。人の畑の野菜を盗って食べた。ちゃんと手は合わせたけどね。」「あたしはねえ、共產主義こそ理想の社会と思うた時期があった。耳を傾けつつ、寄り道も、迷い道も、人生の肥やしになり得るのだ。自分を信じ、前を向いて進め。そう勇気付けられる気がした。」

「先生なら百二十まで生きられる気がする。」と言う私に「百二十は無理かもわからないけど、あたしも百は行けると思うね。」それが先生と直接交わした最後の会話となった。お別れの日には思いがけず早くやって来たが、戦前・戦中・戦後の長い長い路を、小さいけれど頑健な身体、明晰な頭脳、行動力、強烈な求心力、ユーモア、けつしてへたれない強い心で歩き通され、天晴れ生涯現役を貫かれた。只管感謝。合掌。

(モノ申す)はあがこん読者の私見に基づくエッセイです。Y)